

高原農業研究所

第1 基本方針

高原地域の農業は、広大な農地と草原の景観に代表される冷涼な自然条件を生かし、畜産、水稲、野菜を中心とした営農が行われている。

これらの中で、水稲では良食味米「コシヒカリ」を中心とした特別栽培米の生産が積極的に行われている。また、野菜では露地や施設において冷涼な気候を活かした多彩な品目が栽培され、夏期における重要な野菜供給基地となっている。一方、水田作では、業務用米等の新たな用途に対する品種の要望が高まるとともに、二毛作による土地利用の効率化が望まれている。また、高齢化や担い手不足から農地の管理を生産法人等に委託する生産者も増えている。さらに、山間部においてはイノシシ、シカ、サルなどによる鳥獣害が顕著になっている。野菜では、地球温暖化による夏期の高温が施設夏秋野菜の収量や品質の低下を招いている。

このような状況の中、土地利用型作物である水稲、麦、大豆では、優良品種の選定や優良種子の安定供給及び実需者ニーズに応じた新品種の栽培技術、二毛作の作付体系技術の確立が求められている。また、イチゴやホウレンソウなどの野菜においては、安定多収のための栽培技術や高温対策を確立することが重要な課題となっている。併せて、鳥獣害を回避しつつ管理を委託された農地等で収益を確保するための品目選定と栽培技術の確立も喫緊の課題である。

このため、高原農業研究所においては、これらの課題を解決するための試験研究に取り組むとともに、水稲優良品種の原原種生産を行う。

第2 重要研究事項

1 水田部門

(1) 地域、用途に適合した高品質多収品種の選定と作付体系の確立

水稲では、倒伏しやすく生産が不安定になりがちな「コシヒカリ」の欠点を補う新たな良食味品種を選定する。また、需要が高まっている業務用米では大麦との二毛作が可能な多収性品種の選定と栽培技術を確立する。

大麦では、低温害に強い栽培特性や品質に優れた品種の選定を行うとともに、もち性大麦の栽培技術を確立する。

大豆では、収穫分散と品質向上を図る高冷地域に適した高品質な早生品種の選定を行うとともに、大麦の適期播種が可能となる品種の選定と作付体系を確立する。

2 野菜部門

(1) イチゴ新品種「ゆうべに」の栽培技術の確立及びホウレンソウの高温対策技術の確立

イチゴでは、本県育成のイチゴ新品種「ゆうべに」の高設栽培における省力栽培技術や不良果低減技術を確立する。ホウレンソウでは夏期高温時における発芽率の向上などを図るために高温対策技術を確立する。

(2) 中山間地におけるサトイモの省力栽培技術確立

管理を委託された農地を効率的に活用して所得向上を図るため、一定の収益が期待できるサトイモについて親芋分離機等を活用した省力的、効率的な収穫調整作業体系を確立する。

3 鳥獣害対策

(1) 中山間地における収益確保のための鳥獣害対策技術の確立

山間部において鳥獣害が拡大していることから、鳥獣害を受けにくい品目としてゴマ及びニンニクについて栽培技術を確立する。

第3 試験研究課題一覧

【高原農業研究所】

部門	大課題	中課題	予算		小課題	試験期間
			金額	区分		
水田作	1. くまもとの魅力を発信できる新品種の開発・選定	(1) 水稻等の優良品種の選定	736	県単	① 優良品種の選定（水稻、大麦、大豆） ③ 水稻の作況調査 ※②はR3で終了	S48～継続 S48～継続
		(2) 水稻品種育成にかかる特性検定	731	外部資金	① 穂いもち抵抗性検定試験	H26～継続
		(3) 主要農作物種子生産改善対策事業（再掲）	農産園芸課	令達	① 水稻、麦類奨励品種決定調査「農産園芸研究所」 ② 大豆奨励品種決定調査「農産園芸研究所」 ③ 水稻、麦類、大豆の原原種系統選抜及び原種審査「農産園芸研究所、高原農業研究所」	S27～継続 S59～継続 S27～継続
		新規 (4) 高冷地域における実需者ニーズに応じた品種の作付体系確立	983	県単	① 大麦後作における業務用米の栽培技術確立 ② 大豆及びソバ後作における大麦の栽培技術確立 ③ 後作大麦の適期播種を可能にする大豆有望品種の栽培技術確立	R4～R5 R4～R6 R4～R6
野菜	2. 稼げる農業を目指した革新的な生産技術の開発	(1) 中山間地における鳥獣害を回避する品目の選定と栽培技術確立	1,474	県単	② 鳥獣害を受けにくい品目の栽培技術確立 ※①、③はR2で終了	R1～R4
		(1) イチゴ「ゆうべに」の普及拡大を加速する生産技術の確立（再掲）	1,091	県単	① 大規模生産を可能にする省力的生産技術の確立「農産園芸研究所、高原農業研究所、アグリシステム総合研究所」 ② 品種特性を活かした生産安定技術の確立「農産園芸研究所、高原農業研究所、生産環境研究所、アグリシステム総合研究所」 ③ 不良果低減技術の確立	R2～R4 R2～R4 R2～R4
野菜	2. 稼げる農業を目指した革新的な生産技術の開発	(2) 中山間地におけるサトイモの面積拡大を可能にする省力栽培体系の確立	888	県単	① 収穫調整作業の省力化技術の検討 ② サトイモの省力栽培体系の確立	R3～R5 R4～R5
		新規 (3) 夏秋ハウレンソウ栽培における高温対策技術の確立	1,215	県単	① 夏秋ハウレンソウにおける資材を活用した高温対策技術の確立 ② 高温期に対応したハウレンソウ品種の選定 ③ 高温対策を組み合わせた安定生産技術の確立	R4～R5 R4～R5 R5～R6

注) **新規**：本年度から新たに取り組む課題

組替：課題設定時の内容を組み替えて設定する課題

延長：課題設定時の完了予定年度を延長して設定する課題

短縮：課題設定時の完了予定年度を短縮して設定する課題